

平成28年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
(系統性のある支援研究事業)
成果報告書 (概要版)

実施機関名 (日野市教育委員会)

1. テーマ

「かしのきシート」のシステムによる運用を通し、小学校、中学校、高等学校において、切れ目なく系統性のある支援を行うための引き継ぎ方法の研究を行う。

2. 問題意識・提案背景

0歳から18歳までの発達障害など特別な支援を要する子供に対し、福祉と教育が一体となって支援を行うという日野市発達・教育支援センターの理念を具体的な施策として展開しているのが「かしのきシート (個別の支援計画)」である。平成27年度の研究事業では「かしのきシート」の運用等の見直しを行うとともに、電子システム化の開発を行った。平成28年度は電子システム化を本格稼働させるに当たり、課題の整理とシステムの円滑な運用と定着に向けての取組を行うことが必要となった。

また、未就学→小学校→中学校→高等学校と切れ目のない継続した支援を実施するに当たり、中学校から高等学校に対して情報を引き継ぐ体制が希薄であった。中学校におけるどのような情報がどのような形で高等学校に伝えなければならないのかを顔の見える関係の中で議論する必要があるがあった。

3. 目的・目標

- ・「かしのきシート」の電子運用について内容を明確化する
「かしのきシート」のシステム化が本格稼働する中、それに伴う課題について整理と解決
- ・「かしのきシート」に取組む高等学校の拡大と有効性の検討
継続支援研究地域運営協議会など各種会議や学校間連携コーディネーターによるヒアリングをとおして高等学校における「かしのきシート」の取組の有効性の検討
- ・「かしのきシート」のシステム化に伴うリーフレット、電子運用マニュアルの作成
システムの円滑な運用と定着化を目指してリーフレット、マニュアルの作成

4. 主な成果

- ・日野市内外の高等学校と一堂に会し、顔の見える関係を構築することができた。系統的な情報の引き継ぎ方法や支援体制を議論し、高等学校での「かしのきシート」の有効性を明らかにした。

- ア 日野市内の都立高等学校、都立特別支援学校、日野市教育委員会による特別支援教育に係る情報交換会を開催
 - イ 「かしのきシート」に取り組む日野市外の高等学校に対し、学校間連携コーディネーターがヒアリングを実施
 - ウ 継続支援研究地域運営協議会を2回開催。2回目の協議会では協議会メンバー以外に日野市内の都立高等学校、日野市外の「かしのきシート」に取り組む高等学校の参加も得て、「高等学校における支援ができる組織づくり」をテーマに講演を実施
- ・「かしのきシート」電子システムの円滑な運用と定着化を目指して、リーフレット、運用手順書等電子運用マニュアルを作成した。

5. 指定校における取組概要

①持続的な引継ぎシステムを指向した個別の教育支援計画等の作成方法等の研究

学校間連携コーディネーター（1名配置）による前在籍校や後在籍校などに対する聞き取りを参考としながら、「かしのきシート」を「個別の教育支援計画」と一体化し、これまでの紙ベースから「発達・教育支援システム」によるシステム管理へと移行した。これにより子供の支援方針等のチェックが可能となり、所属環境に左右されない支援体制が確保できるようになった。

また、市内の特別支援学校に通う子供たちについても「かしのきシート」と「個別の教育支援計画（学校生活支援シート）」を一体化した。ただ、特別支援学校は発達・教育支援システムとつながっていないため、就学前の施設で作成した「かしのきシート」は、システムからコピーのうえ引継資料として情報提供することとした。その後作成された「個別の教育支援計画（学校生活支援シート）」は、発達・教育支援システムでも取り込み、保管することとした。

②進学前後における適切な引継ぎ内容及び時期等の研究

学校間連携コーディネーターが中心となり、下記のとおり会議とヒアリングを実施した。

ア 情報交換会を開催（平成28年8月22日）

日野市内の3つの都立高等学校、都立特別支援学校、日野市教育委員会による特別支援教育に係る情報交換会を開催した。会議では、切れ目のない支援を行っていく上で高等学校での「かしのきシート」の役割などを議論した。

イ かしのきシート活用高校へのヒアリング（平成28年12月～29年1月）

「かしのきシート」に取り組んでいる6つの高等学校に対し学校間連携コーディネーターがヒアリングを実施した。ヒアリング内容は、「かしのきシート」に取り組んでの感想、中学からどのような情報が必要かの2点を中心。各校での取組状況が把握できたとともに、中学からの情報の必要性が確認できた。また、各高等学校との顔の見える関係性が構築できた。

ウ 継続支援研究地域運営協議会を開催（平成28年11月25日・29年1月17日）

今年度は協議会を2回開催した。とりわけ第2回協議会では、前在籍校・後在籍校など従来の協議会メンバーに加えて、日野市内の都立高等学校、「かしのきシート」に取り組んでいる市外の高等学校の参加を得て、学識経験者による「高等

学校における支援ができる組織づくり」をテーマに講演を実施した。

③児童生徒本人及び保護者の同意を得つつ、引継ぎを実施する体制の整備評価手法

「かしのきシート」は、平成27年度にシステムを構築し、平成28年度に公立の保育園、幼稚園、小・中学校と接続することにより、地域全体で子供を支える仕組みがスタートした。平成29年度には、民間の保育園、幼稚園との接続を行い、最終的には70を超える拠点とシステムがつながることになる。システムの円滑な運用と定着化を目指して、リーフレット及びマニュアルを作成した。

マニュアルでは、児童生徒の検索から入力・出力・保存に至る作業とともに保護者同意の手続き、日付なども解説した。また、システムに係る操作や作業のみならず、「かしのきシート」、「個別指導計画」、「個別の教育支援計画」の違いと相互の関係も説明し、関わる教職員の手引書とした。

6. 今後の課題と対応

日野市では、福祉と教育が一体となった相談・支援機関として「エール」を開設し、そのエールが中心になって作成し、切れ目のない支援を補完するのが「かしのきシート」である。

「かしのきシート」のシステム化が取組まれたことにより、シート作成の効率化とともに、関係機関による確実な情報の引き継ぎ、引き継ぐ情報の質の統制がなされるようになった。現在は公立施設のみでの接続であるが、平成29年度には民間施設（保育園・幼稚園）にも拠点が増えていく。システムの拡大による拠点数の増加とともに最大限配慮しなければならないのがセキュリティ対策である。電子運用マニュアルにおいても、安全で確実な情報管理という視点を基本に作成しており、教員への操作研修をはじめとしてセキュリティ対策には常に強化が必要である。

また、平成28年度の研究事業では、日野市内の高等学校のみならず、市外の高等学校にも積極的にアプローチすることができた。切れ目のない支援を展開していくうえでは、これまで関係の薄かった高等学校とどう連携していくのが課題であったが、一定の成果を得ることができた。現在、高等学校における特別支援教育が注目されつつある中、中学校からの確実な情報の引き継ぎは重要性を増している。

今後、「かしのきシート」の利用者が増える中で、高等学校での活用も増加することになる。今回、日野市内外の公立の高等学校は継続支援研究地域運営協議会に参加したが、私立高等学校も一堂に会する機会を設け、支援の在り方を議論し、連携の幅を広げていきたい。

7. 指定校について

【前在籍校】

(小学校の場合)

指定校名：日野市立七生緑小学校	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
	通常の学級	63	2	74	3	80	2	71	2	58	2	92
特別支援学級	3		0		3		5		3		6	計3

通級による指導 (対象者数)	0		1		2		2		4		0	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	24	1	1	1	1	2	2	2	36	

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害

※通級による指導の対象としている障害種：情緒等障害

指定校名：日野市立夢が丘小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	47	2	51	2	56	2	49	2	53	2	57	2
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	15	1	1	2	2	0	2	4	29	

(中学校の場合)

指定校名：日野市立日野第三中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数		学級数
通常の学級	98		3		110		3		126		4
特別支援学級	5				4				0		計2
通級による指導 (対象者数)	4				5				7		計2
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	23	1	8	1	1	6	1		43

※特別支援学級の対象としている障害種：自閉症・情緒障害

※通級による指導の対象としている障害種：情緒等障害

【後在籍校】

(中学校の場合)

指定校名：日野市立日野第三中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数		学級数
通常の学級	98		3		110		3		126		4
特別支援学級	5				4				0		計2
通級による指導 (対象者数)	4				5				7		計2
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	23	1	8	1	1	6	1		43

※特別支援学級の対象としている障害種：自閉症・情緒障害

※通級による指導の対象としている障害種：情緒等障害

(高等学校の場合)

指定校名：東京都立日野高等学校										
学級数及び児童生徒数										
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年			第4学年	
		生徒	学級数	生徒	学級数	生徒数		学級数	生徒	学
全 日 制	普通科	360	9	316	8	303		8		
教職員数										
校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員			その他	計
1	1	49	1	3	2	4	0		1	68

8. 問い合わせ先

組織名：日野市教育委員会

- (1) 担当部署 教育部 教育支援課
- (2) 所在地 東京都日野市旭が丘2丁目42番地の8
(エール：日野市発達・教育支援センター)
- (3) 電話番号 042-514-8425
- (4) FAX番号 042-514-8740
- (5) メールアドレス kyouikusien@city.hino.lg.jp